

秋の交流会

今回の交流会は上越市の本町通りで開催されている「越後・謙信・SAKEMまつり」に参加することから始まりました。

平成二十三年十月二十三日（日曜日）

まず、各自「SAKEMまつり」を楽しんでもらうことにしました。

参加者にはお猪口とペットボトルのお水が配られ、各ブースで何杯でも試飲できるというものです。

あいにくの小雨にも関わらず多くの方が参加していました。Jネットの会員も色々なお酒を楽しんで頂けたようです。上越市の太田係長も休日にもかかわらず来て頂き、受付前で我々を歓迎してくれました。十四時ごろには交流会の参加者が全員揃いあちこちで試

飲をされていたようです。

会場は駅前からの道路が本町通りと交わる本町五丁目の角から本町二丁目の司令部通りまでと長く、その間に



二十四のお酒のブースと四十二の食のブースが並んでいます。

距離が長いので、雨の中を歩いて廻るのは結構疲れ、要領よく本町通りの適当なお店に入って休んでいた方も居られたようです。

十六時に頸城自動車の営業所前へ集合し、大型バスで赤倉へ向かいました。

最近海外ではバスの重大事故が多発しており、今回は安心できる業者ということで頸城観光株式会社をお願いしました。

出発してすぐに全員に最中が配られました。毎回地元の御菓子を用意して



いますが、今回は参加頂いた相川さんに敬意を表して「相川最中・羊羹本舗」の最中を用意しました。

バスにビールとお茶が用意されていました皆さん「SAKEMまつり」で呑み過ぎたのか殆ど減りませんでした。大型バスは快適で予定通り「金型あかくら荘」に到着しました。

まずはお風呂に入って、それから大広間で宴会です。いつもの通り大変な御馳走でした。この建物を設計された樫野さんから雪中梅の差し入れてがあり、美酒を楽しみ、皆さん相当な酒量になったようです。



そのあとは恒例のカラオケルームで飲んで歌って、踊って騒いで：が遅くまで続きました。そのあとは部屋へ戻つての飲み会が続きました。

平成二十三年十月二十四日（月曜日）

翌日は食堂で朝食を頂きました。ビールも御馳走も沢山出てきて大変満足でした。

九時に出発してワクイホテルへ行き百八歳の「後藤はつの絵画展」を見ました。後藤はつさんは二十歳で結婚し、絵を始めたのは七十三歳の時で平成十一年には文部大臣奨励賞を買つて



います。ワクイホテルは後藤はつさんの実家で、館内に百号のキャンパスが全十九点展示されていました。百八歳とは思えない力強い絵に皆さん圧倒させられた様です。

続いて野尻湖ナウマンゾウ博物館へ行き係員の説明を聞きながら展示物を見ました。そこから野尻湖畔を右回りに廻った対岸にある野尻湖ホテル・エテルボスコで昼食です。昔はプリンスホテルだったところですが、白樺に囲まれたお洒落なレストランで食事とワインを堪能しました。

その後は黒姫高原へ行き、「童話の



森ギヤラリー」「黒姫童話館」「いわさきちひろ黒姫山荘」を見学し、上越市へ向かいました。

上越では「スキー正宗」で知られる「武蔵野酒造」へ行き酒造りの現場を社長の小林元さんに案内していただきました。その後、素晴らしいお庭を望める「楽酔亭」で試飲をさせて頂きました。「楽酔亭」の名前は坂口謹一郎博士の言葉「愛酒楽酔」から名を買ったのだそうである。お土産のお酒を買って「うみでらす名立」へ向かいました。

「うみでらす名立」に到着し、風呂



に入つて、その後は宴会である。かつて、Jネットの担当で色々お世話になった三浦さんがワインを抱えて訪ねてこられた。大変お元気のようだ。予約の際に宴会場を豊の部屋にするかテールにするか悩んだが、椅子席にしたのは正解だったようだ。料理はさすがに海の傍だけあってお刺身が美味い。その後の部屋での二次会は連日のお酒のせいか比較のおとなしかった。

平成二十三年十月二十五日（火曜日）

朝食後に売店で買い物をしたり、集



合写真を撮ったりで少し出遅れました。

岩屋堂聖観音は越後三十三番札所観音霊場の第一番札所に当たる。由緒あるものらしく、千三百円で買った案内書には二十二番札所に良寛さんで知られる五合庵のある国上山国上寺がありました。

各札所にはそれぞれ御詠歌があり、岩屋堂には次の歌がありました。

浦陀落や名立の浦ときくときは
潮の音もみ法なりけり

岩屋堂の前にはこれまで枯れたこと



のない水溜りがあり、昔から痰取の水と言われていたそうです。

バスで移動して「いわおの石仏群」を見た後で居多神社へ急ぎました。

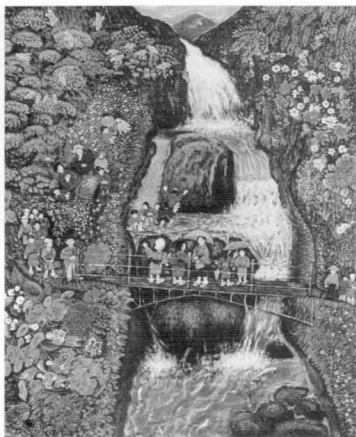
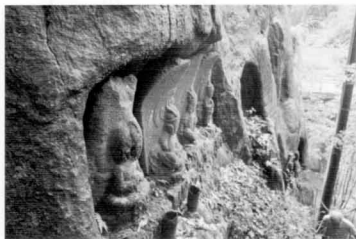
花ヶ前先生の講話を聞いた後で割烹「なみとせ」へ行きました。日本海を眺めながらの昼食は気分が良く、食事もうまい。食事の後は上越物産センターへ行きました。最後とあって皆さんお土産が多いようです。

その後、十四時過ぎに直江津駅で解散し、その後、高田に帰る人を高田駅前まで送りました。

(編集部・記)







文部大臣奨励賞 第25回現代童画展
「明治42年の遠足 苗名の滝」(1999年)



後藤はつ子さん(108歳)